

七ヶ用水

七ヶ用水は、福井県大野市の南東部に位置し、九頭竜川を水源とし、九頭竜川左岸の水田地帯を潤しています。

七ヶ用水は、その名の元となった三ヶ用水(集落名:下唯野、七板、下麻生嶋)、四ヶ用水(集落名:森目、土打、富嶋、上野)の歴史をひも解くと、寛永4年(1637年)までさかのぼります。

古の九頭竜川は、崩れ川、暴れ川の異名を持ち、洪水により常に流心が変わり、取水口の保全には並々ならぬ苦勞を強いられましたが、地域住民、関係農民により守られてきました。



時は移り明治の時代になると、「普通水利組合条例」が施行され、明治15年(1822年)に当時の富田村長の管理の下で、三ヶ用水と四ヶ用水は合併しました。それにともない、現在の名称である「七ヶ用水」となり、九頭竜川の氾濫によりたびたび破壊される田堰の保全や沈床の復旧、田堰の位置を変更したり、浚渫の作業が行われました。

終戦後、昭和20年～25年(1945年～1950年)にかけて、県下で最初のかんがい排水事業として水路整備が行われ、トンネル365mを含む水路1,335mの用水改良が実施され、新たに約120haの農地が開拓される礎となりました。

昭和32年から始まった九頭竜川の電源開発の際には、その開発に協力した結果、九頭竜川本流にダムが建設され、農業用水と発電用水との共用・分水契約が交わされ、農業用水取水口を兼ねた発電用水取水口を持つ富田発電所が建設され、電力開発の一端を担いました。

七ヶ用水は、現在も地域のかんがい用水としてだけでなく、生活用水として重要な役割を果たしており、下流部の斜流分水工は、独特の景観を保っています。

